



2019年12月

Vol. 21

発行 日本福音キリスト教会連合  
宗教法 湘南ライフタウンキリスト教会  
〒252-0816 藤沢市藤森398-4  
TEL 0466 (87) 3245  
<http://slcc.sakura.ne.jp/wp/>



# SLCC だより

Shonan Lifetown Christ Church

## 『十字架のことばは、滅びる者たちには愚かであっても、救われる私たちには神の力です。』(新約聖書コリント人への手紙第一 1 章 18 節)

私達の教会は湘南ライフタウンの西に位置し、湘南ライフタウン・バスターミナルから西側を見上げると、教会の白い十字架が見えます。なぜ、教会の屋根に十字架がシンボルとして立っているのでしょうか。十字架はイエスのはりつけにされた処刑の道具です。ローマ帝国の時代、十字架刑は最も重い刑罰でした。それはどのようなものだったのでしょうか。

イエスはゲツセマネの園で、裏切り者であるイスカリオテ・ユダの手引きにより捕らえられ、大祭司のもとに連れて行かれました。そこで、最高法院が開かれました。しかし、イエスを罪に定める証拠が得られず、大祭司が「おまえは神の子キリストか。」と尋ねると、イエスは「あなたが言ったとおりです。」と答えたため、イエスが自分を神とした冒瀆の罪で死刑の判決を下されました(マタイ 26:66)。

祭司長はイエスを縛りローマ総督ピラトのもとに連行しました。当時のユダヤはローマ帝国の統治下にあり、死刑はローマ総督の判決が必要でした(ヨハネ 18:31)。ところが、ピラトはイエスが死に値する罪を見出すことができません(ルカ 23:15-16)。ピラトは過越の祭りごとに囚人を一人釈放していました。ピラトは人殺しのバラバとイエスを天秤にかけイエスの釈放に努めたのですが、「イエスを十字架につける」と迫る群衆を恐れ、イエスを十字架につけるために引き渡しました(ルカ 23:25)。

ユダヤに駐屯していたローマ兵の全部隊がそこに集められました(マタイ 27:27)。ピラトはイエスを鞭でたたきました(ヨハネ 19:1)。兵士達はイエスの頭に茨の冠をかぶらせ、

「ユダヤ人の王様、万歳」とあざけり、葦の棒でイエスの頭を叩き、唾をかけ、からかいました。これは拷問です。

兵士達はイエスに十字架を背負わせ、処刑場であるゴルゴタの丘に向かわせます。ところが、途中でクレネ人シモンにイエスの十字架を背負わせました(マタイ 27:32)。拷問でボロボロになっていたイエスは十字架の重さに耐えられず、動けなくなっていたのでしょうか。

ゴルゴタの丘に着くと、まずイエスはその十字架の上に寝かされます。その上でイエスの手足に太い釘が打たれます。その激痛は全身を貫くのではないのでしょうか。また、その十字架が立てられるために、徐々に起こされます。その間もイエスの全体重が十字架に磔にした太い釘にかかってきます。その十字架が立てられるとき、あらかじめ掘っていた穴にその十字架を落とし、直立します。その落とされたときの激痛は想像できません。しかし、それで終わりません。この十字架刑は息絶えるまで、この激痛が続くのです。

一般的に考えれば、この十字架は不名誉なことであります。しかし、このイエス・キリストがまことの神であったならどうなるのでしょうか。この後、イエスは三日目に十字架の死よりよみがえり、まことの神であることを証明しました。ここに大きな逆転劇が見られます。だからこそ、その十字架に私達の希望の光を見出すことができるのです。

湘南ライフタウンキリスト教会  
牧師 菅野淳一